

2026 年（令和 8 年）度
一般編入学試験 A 日程 問題
小 論 文

2025 年 11 月 23 日 実施

【解答上の注意】 答えは別紙解答用紙に、左横書きで書いてください。
この問題用紙の余白や裏面を下書きなどに利用してもかまいません。

《課題文》

明治維新は日本の文化を劇的に変える文化革命でもあった。教育、洋装、肉食、音楽など変革は広範囲にわたるが、決定的に重要なのは日本語の革命だった。変革された日本語は日本人の思考方法や思考領域、そして日本文化にも大きな影響を及ぼすことになる。

なぜ日本語が変革されたのだろうか。最大の要因は、オランダ語、次いで英語と出会ったことだった。これらの西洋語はわずか 26 文字のみで、表記の仕方（正書法）も統一されている。地位・身分や男女の性差によっても大きな違いはない。話し言葉と書き言葉もほぼ同じ「言文一致」だ。これは日本人には驚きだった。[中略]

一方、日本語は平仮名・カタカナと数千の漢字で表記する。しかも漢字には 3 つの音読み（呉音・漢音・唐音）と訓読みがあり、字体も楷書・草書・行書など複雑で、ときに日本人でも読めない。話し言葉と書き言葉が大きく異なり、武士・平民・職人などの身分・地位・職業、男女の性差によって表現が違う。さらに、地域割拠にもとづく幕藩体制下では、地域ごとに多様なお国言葉（方言）が話されていた。幕末の日本語は、なんとも複雑きわまらない言語だったのだ。

来日した西洋人は大いに困惑した。幕末から日本に滞在した英国人の J・R・ブラックは、日本語の「特有の難しさ」について「文章の言葉と会話の差異が大きい。紳士の言葉と、私が「俗語」と呼んでいる言葉（これは庶民の言葉という意味だが）とは、これはまた相違が著しい。男と女とは、別々の言葉を使う」（『ヤング・ジャパン』）と、日本語習得の困難さを嘆いている。[中略]

円滑なコミュニケーションを行うには相手の文化を理解し、ふさわしい英語を使う必要があるが、それが難しい。例えば、日本語には「つまらないものですが」などの謙遜表現が多いが、そのまま英訳すると相手がびっくりする。ある横浜の商人が天皇誕生日の祝宴に英米人らを招いた。英語にちょっと自信のあった商人は「何も召し上がるものはございませんが、次の部屋へ席を設けましたから」と言うつもりで、こう言った。“Please eat next room but there is nothing eat.”（何も食べるものはなきが、次の部屋を食べたまえ）。この話は外国人居留地でうわさとなり、宴会では「次の部屋を食べよ」が大流行したという（篠田鉦造『明治百話』）。

幕末の開国によって諸外国との交流が進み、相互のコミュニケーションが欠かせなくなると、日本語の複雑さが大きな障害になった。西洋の先進知識の摂取と円滑な意思疎通のためには、日本語の改革が必要になったのである。

政府は中央集権国家を形成するために、統一的な日本語である「国語」を作ろうとした。明治中期には、文字言葉を話し言葉と一致させる「言文一致」の運動が展開されてゆく。

日本語改革の動きは、幕末期にオランダ語や英語などの西洋語を日本語に翻訳することで始まった。洋学系出版物の中に口語日本語が登場するようになったのである。

（江利川春雄著『英語と明治維新』より）

《問 題》

課題文を読み、以下の指示に従って答えなさい。

- （1） 外国語との接触により幕末・維新期の日本語に生じた変化について、200 字以上 300 字以内で解答欄①に書きなさい。
- （2） 次の問いへの答えを、300 字以上 500 字以内で解答欄②に書きなさい。

問：今後、外国語や外国文化を学習・研究するとどのような意義がありそうか、自分の考えを述べなさい。